

日韓NCC-URM協議会 2005.10.4~7 参加記 飛田雄一

NCC-URMとはなんじやいな、と思われる方の方が多いと思うが、NCC-URMは、National Christian Council Urban Rural Mission の略で、キリスト教協議会都市農村宣教のこと。まあ、キリスト教の社会派?のネットワークで、日本ではプロテスタント教会の連合会(加入していない教派もある)である日本キリスト教協議会にURM委員会(委員長・李清一在日韓国基督教会館KCC総幹事)がある。神戸学生青年センターもキリスト教を母体として作られた財団法人で、私もこの委員会の委員をしている。



聖ラザロ・マウル(村)入り口

私が韓国に初めて行ったのは1978年で、この日韓NCC-URMの第一回協議会に参加するためだった。訪問記を『むくげ通信』48号(1978.5)から51号(1978.11)まで4回にわたって書いている。久しぶりに読み直してみると初々しいし、私のガリ版の字もかなり丁寧である。懐かしくなってむくげの会のホームページ <http://ksyc.jp/mukuge/>に貼り付けたので読んでみようという方はのぞいてみてください。(当時の協議会はUIM協議会だか、これはUrban Industrial Mission、都市産業宣教。UIMは農村問題の視点を重視しなければならないとの観点から日韓ともURMに変更。)

日韓の協議会はその後も日本と韓国で開かれ今回の協議会が7回目となる。10

月4日~7日、ソウルの南・儀旺市のカトリック教会の施設「聖ラザロ・マウル(村)」で開催された。主題は「“生命”“平和”“共同体”」。参加者は、日本より16名、韓国側が39名。「世界のグローバル化と貧しくされた者の選択」をテーマにした韓国聖公会大学副学長の朴スンウォンさんの講演のあと、農村宣教、外国人労働者、労働運動問題についての発題があり分科会も開かれた。



協議会のようす

会議の最後に採択された共同声明では「私たちはこの会議をとおして相互の宣教経験を分かち合い、多くの慰めと勇気を得ることができた。また世界的規模で押し進められている巨大な悪しき力に立ちはだかって“神の人”としてどのように生きなければならないかについて話し合った」結果として日韓の教会、政府に次のことを要望した。キリスト教用語が多く違和感を持たれる方もおられるかも知れないが紹介する。

[日韓両国教会に]

1. 新自由主義市場経済秩序は、神が望まれる秩序ではない。 / 2. 私たちは、神の正義に基づく“生命”“平和”“共同体”的価値がより普遍的であり、より持続可能な社会を作っていく価値であると確信する。 / 3. グローバルな巨大な闇と不義の勢力に立ち向かう道は、私たちがキリストの靈性に活かされ歩んでいくことである。 / 4. 私たちは優先的関心を弱者の

苦痛の声に置く。/5.私たちのめざす宣教は、苦痛を受ける人々を慰めるだけでなく、彼(女)らの苦痛の声を、あらゆる社会構成員に理解させ、拡散させることである。/6.私たちはこのような努力のために、日韓URM交流30周年となる2008年まで日韓両国それぞれの場で実践し、継続的連帯と対話を続けるであろう。

[日韓両国政府に]

1.無条件的な労働市場流動化政策に反対する。/2.社会の両極化を加速させる現政策を是正し、人権に基づく労働政策を実施せよ。/3.農民と合意のない自由貿易協定に反対する。/4.食糧主権と農民の生存権を保障せよ。/5.不合理な農政を改革し、農村の文化的価値を保全せよ。/6.外国人研修制度を完全廃止し、雇用許可制を全面実施せよ。/7.外国人移住労働者に対する人権侵害を即刻中止せよ。/8.難民と移住労働者に対する収容施設を改善し、彼(女)らの人権を保障せよ。

会議の終了後にはフィールドワークがあった。コースは2つで、農村コースと都市コースだ。後者は、外国人労働者、スラム等で活動しているグループを訪問して交流するものだ。農村グループは、江華島で農村活動の交流と観光だ。私は、農村グループに参加した。江華島に一度行ってみたかったのである。

江華島は、有機農業等を進める農民の活動が盛んな地域だ。いま日本でも「地産地消」が言われているが、江華島を含む仁川市の学校給食は、ほぼ100%達成しているという。キリスト教関係の農民運動も盛んだが、これには江華島の特別の事情もあるようである。韓国は日本に比べるとキリスト教の割合が圧倒的に多く25%とか30%とかいわれる(日本は1%)。訪問した行政の施設である農村センターには、キリスト教の「江華島環境農民会」の事務所があり、会長のキム・ジョンテクさんからお話を伺った。

キムさんは、仁川URMの専従者をしていたが、URM運動の新たな方向を模索していて、この活動にたどりついたという。農民会は、監理教(日本ではメソジストという)の教会が中心になっているが、江華島はなんと監理教の信徒が島全体で50%になるという。全国的に珍

しいことらしい。韓国のキリスト教人口の多いことに関するひとつの説は、キリスト教各教派が朝鮮に入ってきたとき教派間で調整がうまくいき、お互いに他の地域を侵食しないとしたことが各地域でのキリスト教の拡大につながったという説だ。江華島を含む地域はそれが監理教だったのである。現在の江華島には他の教派もカトリック教会もあり、プロテスタントとカトリックをあわせたら人口の80%にもなるとうかがった。驚きである。

江華島は江華島事件で有名だ。1875年、日本の軍艦雲梯号が「水の補給を求めて」挑発的に狭い海峡に入ってきたので、朝鮮側が発砲したと学んだ。ソウルに入る交通の要所である江華島には砲台もおくあるが、130年前のことを思い浮かべながら砲台を見学した。



砲台のひとつ

私の飛行機だけが朝早かったので、この日(7日)は儀旺市には戻らずに、ひとりでソウルに泊まった。復活した清渓川に水が流れたのが10月1日、私はさっそく見に行った。西から東まで全部という訳にはいかなかつたが、満喫した。威圧感のある高架道路が川に変わったのだから本当にたいしたものである。1978年の協議会の時には、焼身自殺をした全泰壱さんが働いていた平和市場を見学したが、そのビルもその高架道路の北側にあった。いま、その付近に全泰壱さんのモニュメントが出来ているらしいが、今回、そこまで行く時間がなかった。次回には訪問したいと思う。

あわただしかつたが、充実の4日間だった。